

リスクマネジメントについて

日常生活そのものがいろいろなリスクと隣り合わせであることは、誰もが認めるところです。スポーツ活動はどうかというと、日常活動プラス、スポーツ活動特有のリスクがあります。スポーツ活動を行うことは、それを承知し引き受けることでもあります。種目によってはリスクを負うことが、心をかき立たせ、その緊張感がたまらないというような事もあるでしょう。

ラグビーの将来を考えると、より安全でいかに楽しめるかが重要なことといえます。リスクに対する配慮は大切です。

例えばスポーツの場において熱中症による不幸な事故は後を絶ちません。指導者の不適切な指導により、家庭の、そして社会の宝である尊い命が失われるとき、指導者の刑事的・民事的、そして道義的責任は免れることはできないのです。

特筆すべきは子どもたちのラグビー活動中の傷害はきわめて少ない事です。それはラグビーがいかに子どもたちへの楽しさと安全性を重視しているか、そしてそのルール改正そのことを最重要課題として考えられている事です。

万が一のことを常に想定し指導計画及び事業計画を作成してください。

また、我が子の活動のようすを記念に撮っておきたいと、練習時あるいはゲームの場においていろいろなアングルからビデオ等で撮影されています。事故が起こった場合常に証拠が残っているということでもあります。

子どもたちは、クラブの多くのメンバーの一員であると同時に、各家庭にあつて宝物であることを充分認識しておいてください。

指導の場もこうした共通認識に基づいての活動が必要であり、その基礎となるのが以下に示すリスクマネジメントの項目です。

- ・責任者、指導者は可能なかぎり指導者損害賠償責任保険等への加入が望ましい。
- ・スポーツ安全保険等への全員の加入
- ・都道府県協会へ登録することにより、ラグビーフットボール協会の傷害見舞金制度が適用されます。
- ・規約の制定等により責任の所在を明確にすること。
- ・代表者はクラブ員の動向を常に把握すること、また、関係者は事前の連絡と、事後の報告を習慣づけること、代表者は連絡を待つのみでなく、むしろ積極的に連絡し状況の把握に努めてください。
- ・行事等必要事項は必ず届く連絡システムを整備し、速やかに知り得る体制を整える。
- ・連絡の不徹底は亀裂を生じさせる。
- ・クラブとメンバー間の契約と管理。
- ・かかりつけの病院を決めておこう。

- ・可能ならばチームドクターの協力を得られれば幸いである。
- ・健康管理（喘息、心臓疾患、アトピー、食事、トイレ等子どもたちの状況の把握）。
- ・暑い時期水分摂取に気を配り、熱中症（熱けいれん、熱疲労、熱失神、熱射病）の事故を防ぐ。
- ・救急箱の準備（中身は常に点検する）。

【参考資料】

保険、補償関係

- ・日本ラグビーフットボール協会傷害見舞金制度
問い合わせ先、日本ラグビーフットボール協会
- ・スポーツ安全保険
問い合わせ先、(財)スポーツ安全協会
〒150-8050 渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育館
TEL 03-3481-2431
- ・スポーツ指導者総合保障制度
問い合わせ先、株式会社日本体育振興
〒215-0013 川崎市麻生区王禅寺西 6-11-10
TEL 044-988-3565
損害賠償責任を負った場合3億円を限度に補償
- ・ボランティア活動等災害保障保険
問い合わせ先、各自治体
加入について必要要件有り
- ・行事保険
問い合わせ先、各保険会社と交渉